

郡山市教育振興基本計画審議会
第3回専門分科会（第2分科会） 概要

日時：令和元年10月24日（木）

午前9時～午前10時

場所：教育委員会室（郡山市役所本庁舎5階）

○出席委員（五十音順）

稲垣 優子 委員、三部 香奈 委員、瀧田 勉 委員、平栗 辰也 委員

○欠席委員

菅家 元志 委員、今野 静 委員、三瓶 千香子 委員

○資料

- (1) 郡山市教育振興基本計画（第3期）素案への意見等一覧表
- (2) 郡山市教育振興基本計画（第3期）素案（意見等修正後）
- (3) 体系図（学校教育分野）、（生涯学習分野）

※前回、第2回分科会にて提出した体系図に意見等を矢印で反映したものの。両分野分。

1 「素案への意見」への事務局説明

※説明内容は一覧表を参照し、おおむね、カテゴリーの意見（黄色部分）について口頭説明。
一覧表の補足説明があったものは以下に記載。

- (1) 序章：3件
- (2) 第1章：0件
- (3) 第2章3まで：2件
- (4) 第2章基本目標4施策1：1件
- (5) 第2章基本目標4施策2：2件
- (6) 第2章基本目標5施策1：1件
- (7) 第2章基本目標5施策4：1件

・成果指標について、この施策については、これからの新たな時代に対応した内容ですので、今現在の適した指標は難しいです。指標を入れることで縛りができてしまうことも懸念されます。次期計画を作成するときには、成果指標を入れていきたいと思えます。

- (8) その他：3件

2 審議

P83 4-2方針と指針：連携部署について

・意見の趣旨としては、子どもたちが集団に入る年齢が低年齢化する中、産まれてから集団に入るまでを切れ目無くケアできるように、繋ぐ役割を担う部署を入れるというものです。そ

の意味で、部署名は合っていますか。(稲垣委員)

→産まれてから集団に入るまでの担当部署はこども部こども支援課になり、保健師がケアを行います。また、障がい児のケアについては保健福祉部で行っております。

P97 5-1 子ども読書活動推進事業 学校司書の研修について

・学校司書同士で学びたいこと、分からないことが多々あります。現状では専門の中央図書館の司書へ個別相談しています。もっと連携を図れると良いと思うので、研修とは別に、専門の司書からの講習があると良いのではないのでしょうか。(稲垣委員)

→学校へのレファレンスは、学校ごとに様々な内容が届きますので、現状では個別に対応しております。なお、各学校へ図書に関するサービスをまとめた冊子をお配りしています。

その他 事業の「対象者」のキャラクター化について

・子どものみを対象とした計画ではないため、現在の表現に留めるということだが、子どもから高齢者まで、見てもらうという意味では、インパクトがあり、楽しく読める要素であると思います。今回の計画に反映できないとしても、そのような目線があっても良いと感じました。(平栗委員)

・「5つの視点」の中でSDGsのマークだけが目立ち過ぎている印象を受けたので、他の視点についても○だけではなく、アイコン化するとキャッチーではないのでしょうか。(瀧田委員)
→工夫を致します。

・一番大事なのはこの計画に基づいて、学校教育・地域の皆さんがいかに、より良い教育や活動に取り組めるかというところですので、より広く、市民の方に知ってもらうことが必要です。PR、情報発信が必要です。子どもたちに夢を持ってもらえるような、未来の郡山の教育環境像を視覚で訴えられるようなツールがあればとても良いと思います。(三部委員)
→今回の計画は、1期や2期とは違った見せ方をしており、事業群もより分かりやすい内容になっています。また、周知については、Web公開や概要版の作成を考えております。その中で見せ方についても工夫をして、分かりやすいものを作りたいと思います。

・教員の働き方改革と子どもたちの環境の充実が相反すると思われるために、働き方改革が、なかなか実行されにくい現状があると思います。「全体最適」を目指すという考え方があります。一部の者にとって最適でなく、全体にとって最適なものを選ぶというもので、ここで言えば教員だけでなく、地域、PTAなど全体にとって最適な働き方改革を目指すという文言を入れてみてはどうでしょうか。(三部委員)
→働き方改革については第1分科会へ伝えます。

・親が働きながら子育てをしている方が大変多い中で、地域の子どもたちを、地域みんなで育てて良いという想いがありますので、計画の全体を通して、それが見て取れる内容になってほしいと感じました。(稲垣委員)

- ・今回の台風 19 号の被害を考えますと、「防災教育」が必要だと感じました。学校教育の分野の印象はありますが、高齢者や女性、全ての地域の方に社会教育として災害時の避難について教育が必要であると思います。生涯学習分野にも防災に関する内容を入れていただきたいです。避難所内での世代を超えた交流や自発的な活動についても盛り込めると良いのではないのでしょうか。セーフコミュニティの観点からも非常に大切であると感じます。(平栗委員)
→おっしゃる通り、重要な部分だと思いますので、内容を検討いたします。
- ・自分の仕事を通じて、自己肯定感と多様性を認められる人間（社会）を目指すことが重要であると感じており、郡山の子どもたちにもそのような人になってもらいたいと願います。計画にもそのような文言を入れられないのでしょうか。(三部委員)
→第 1 分科会が関わる部分になりますので、そちらへ伝えます。

3 その他

- (1) 事務局から今後の日程（第 4 回目の分科会、その後の全体会）について

【以下、記録として】

○出席職員

教育総務部次長兼総務課長 馬場 章光
生涯学習課長 大越 総
中央公民館長兼勤労青少年ホーム館長 黒田 知恵子
中央図書館長 熊坂 則男
美術館長 佐治 ゆかり
総合教育支援センター所長 高山 良勝
教育研修センター所長 安田 良一
文化スポーツ部文化振興課長 渡邊 信幸
文化スポーツ部スポーツ振興課長 相楽 靖久
こども部次長兼こども未来課長 橋本 仁信
こども部こども支援課長 伊藤 克也

総務課課長補佐 大澤 修一
総務課総務管理係係長 佐藤 斉
総務課総務管理係主任 濱津 慎一
総務課総務管理係主査 大杉 美穂子